

授業科目名	保育内容指導法 (造形表現)	教員名	山本 辰典 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	FOI208	配当年次	2年前期		幼稚園教諭	必修
授業形態	演習				保育士	選択必修
単位数	2単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「造形表現」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
到達目標	<p>(1) 領域「造形表現」のねらい及び内容について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「造形表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「造形表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「造形表現」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 <p>(2) 領域「造形表現」の指導方法と保育の構想について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 領域「造形表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「造形表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>学生自身がイメージを持ち感性を働かせながら表現することを通して、表現の喜びを得るとともに、造形的な表現活動の能力や創造性を高める。子どもの発達を知り、造形表現活動のねらいと内容を理解し、ねらいの達成のための教材について体験的に学ぶ。さらに、製作過程を振り返り、製作によって幼児が発揮し伸ばさせる能力や材料用具等の準備、保育者の援助や配慮について検討し、保育指導案を作成し、小グループで模擬保育をすることで、造形表現活動を幼児に指導できる力を養う。</p> <p>アクティブラーニングとして、作品制作、作品鑑賞、振り返り・個別の質疑応答、調査学習、指導案作成・模擬保育、グループワーク・グループディスカッションを取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	小学校教諭免許状取得希望者で、幼稚園教育実習の責任実習で造形表現活動を実施したい学生はこの科目を履修することを勧めます。					
授業計画	<p>第1回：幼児教育において育みたい資質・能力、保育者の援助及び指導上の留意点を理解する。 情報機器の活用について理解し、作品の写真を撮影して「作品集」を作成することで、データを保存し、活用する力をつける。色紙を使った製作をする。（「星」、「桜」、「梅」、「雪」の切り紙をする。折り紙や切り紙の製作を保育者役などになり園児役の学生に伝えることで、指導上の留意点を把握したり、紙を扱う技能を高めたりする）（目標(1)-2),(2)-1),(2)）</p> <p>第2回：表現とは何か、造形表現とは何か理解する。保育指導案の構成を知る。 新聞紙を使った製作をする。（「紙鉄砲」、「変わり帽子」及び「炎の剣」などを折る。新聞紙を使ったおもちゃをつくることで、新聞紙の折り方遊び方を数種類習得する）（目標(1)-2),(2)-3)）</p> <p>第3回：幼稚園教育要領の表現のねらい及び内容、内容の取り扱いを理解する。 紙を使った工作について体験的に学ぶ。（カラーティッシュによる工作や折り紙を使ったおもちゃをつくる。色を選ぶことで、色の効果や配色を楽しむことができることを実感する）（目標(1)-1),(2)）</p> <p>第4回：絵を描けない理由を7つに分け、その理由別の指導法を考察する。 クレヨンを使った技法を体験的に学ぶ。（重色・スクラッチ・転写紙・フロッタージュ、ワックスレジスト等を試し、描画をすることで、自分の思いや経験を色と形で表現できることを知る）（目標(1)-2),(2)-1)）</p> <p>第5回：小学校学習指導要領図画工作科の目標を理解する。造形遊びについて理解する。絵具遊びの種類と道具、その扱いを理解する。（「糸引き絵」、「合わせ絵」、「シャボン玉絵」、「型押し絵」、「ビー玉ころがし」、「にじみ絵」、「砂絵」、「染め紙」遊びを体験する。材料</p>					

	<p>用具の準備の仕方を学び、想像力、絵の具遊びの技能を高める) (目標(1)-2),4)</p> <p>第6回：模擬保育の説明と模擬保育の担当決め。前回製作した「絵の具遊び作品」を使って製作をする。(「ちょうちょう」、「さいふ」、「こいのぼり」、「花火」などをつくる。また、できた模様から発想して、作品に貼り絵や描画を加えた後、「お話」を作品の裏に書き加える。製作を通して発想力、表現力を高める。また、学生同士で鑑賞し合うことで、よさを読み取りそれを言葉で伝える能力を高める) (目標(1)-2),3)</p> <p>第7回：保育指導案について具体例をもとに、記述の仕方を理解する。(杉丸太材を使ったカード立てを例として、指導上の留意事項について考察する) (目標(1)-2),(2)-3)</p> <p>第8回：造形表現の発達段階について理解する。模擬保育の作品の試作をする。保育指導案の様式を理解し、教材研究をしたうえで保育指導案を作成する。(目標(2)-3)</p> <p>第9回：製作活動の発達について理解する。(仕掛けを理解し、ポップアップカードを製作する) (目標(1)-2))</p> <p>第10回：子どもの絵の見方について理解する。土粘土の特徴と道具、その扱いを理解する。(土粘土での遊びを数種類体験した後、思いつくものを製作することで、土粘土を扱う技能を高める) (目標(1)-2),3))</p> <p>第11回：導入の工夫について理解する。「お母さんの顔」を例にイメージを明確にする方法を知る。感触を楽しむ製作等について体験的に学ぶ。(小麦粉粘土を作成し、出来た粘土でグループ製作をする。また、フィンガーペイント製作を行う) (目標(1)-2)</p> <p>第12回：第13回：4人グループにおいて、2名が各30分の模擬保育をする。模擬保育中指導者役は幼児役の活動の様子を写真撮影する。模擬保育の後、各10分間の研究討議を行う。教材のよさや、指導法の良さについての気付き、よりよくするための提案等を伝え合う。製作した作品を鑑賞し、気づいたことや、その良さを伝え合う。(目標(2)-4)</p> <p>第14回：情報機器の活用について学ぶ。作品について情報機器を使って記録することで、幼児の個性や成長を読み取ることができることを知る。また、製作のねらいや過程を掲示することで、保護者や職員に保育内容を知らせることができることを知る。(目標(1)-2),(2)-2))</p> <p>第15回：造形表現教育の実践例を2~3聞き、そのよさについて考察する。空き箱を使った車を製作し、その技能を習得する。(目標(1)-2),(2)-5))</p> <p>期末試験</p>
<p>授業外学修時間の確保について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のレポート作成を時間外に行い、指定された日時までに提出すること。 ①折り紙や色画用紙を使った遊びや製作の実践例を調べ、題材のよさや面白さ、ねらい・内容・方法・指導上の留意事項、作品例の図、出典を記す。 ②クレヨンや絵の具を使った遊びや製作の実践例を調べ、題材のよさや面白さ、ねらい・内容・方法・指導上の留意事項、作品例の図、出典を記す。 ③自然物を使った遊びや製作の実践例を調べ、題材のよさや面白さ、ねらい・内容・方法・指導上の留意事項、作品例の図、出典を記す。 ④絵具遊び作品をつくって物語をつくる製作において、1)自分の思いがどう表現されたか。2)表現する際に使った色や形について自分はどうか意図したか。3)表現を通して自分が好きなことや関心を持っていること、願いなどが分かったか。以上について考えを述べる。 ⑤紙皿や紙コップを使った遊びや製作の実践例を調べ、題材のよさや面白さ、ねらい・内容・方法・指導上の留意事項、作品例の図を記す。 <ol style="list-style-type: none"> 1 反省評価を記入した保育指導案 2 模擬保育の振り返り 3 作品集：これまで製作した作品を、スマートフォンなどで撮影し、タイトルを記して保存していた写真を使い、全体でA4用紙表裏2ページに作品の良さや学んだこと、向上した能力について整理して記した報告書をワードで作成する。その際、色彩や構成に留意して美しく仕上げる。 4 ポップアップカード <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に作品は完成しない。各自時間をかけて、納得できるものとなるよう追究して仕上げる。作品の提出期限を示した提出作品チェックリストを配布するので、計画的に時間外学習をすすめてほしい。 ・保育指導案作成にあたっては、図書館で資料を探し、参考にするとともに、幼稚園教育要領に再度目を通した上で、ねらいや指導上の留意事項を書くようにする。保育指導案作成にあたっては個別指導を行う。模擬保育においては必要に応じて各自で掲示物を作成すること。練習をし、自信を持って臨めるようにしてほしい。 ・時間外学習においての道具や教室については、事前に担当の山本にメールで確認すること。
<p>学生に対する評価</p>	<p>期末試験30%・レポート(課題①~⑤)30%・作品集15%・保育指導案作成15%・模擬保育の振り返り5%・ポップアップカード5%</p> <p>なお、レポートの提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
<p>テキスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて担当教員より資料を配布する。

参考書・参考資料等	<p>・参考書・参考書等：</p> <p>『幼稚園教育要領（最新版）』『保育所保育指針（最新版）』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』</p>
担当者からのメッセージ	<p>この科目では、実際に製作する機会を多く持つ。幼児向けの題材であるが、大学生である自分の感性を働かせ、自分の思いを表現し、配色・構成に気を配りながら、丁寧に製作をしよう。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 16：20～17：00 Email：tyamamoto@miu.ac.jp</p>
備考	<p>事前に学生準備物を示すので、忘れず準備すること。 道具等の購入場所が分からない場合は担当教員に相談すること。 製作した作品について、各自スマートフォンなどで撮影し、タイトルを記してデータを保存しておくこと。 担当教員は、小学校・高校における教員（美術）としての経験や保育園や幼稚園での造形ワークショップの経験を活かし保育の現場における造形表現についての講義を行う。</p>